

第Ⅲ期 第8回 国立天文台科学戦略委員会議事抄録

○日時：2024年5月17日（月） 15時00分～16時35分

○場所：国立天文台大会議室、Zoom

○出席者：

（台外）今田晋亮委員（Zoom）、大朝由美子委員（Zoom）、河野孝太郎委員（Zoom）、高橋慶太郎委員（Zoom）、田中雅臣委員（副委員長・Zoom）、戸谷友則委員（Zoom）、渡邊誠一郎委員（Zoom）

（台内）井口聖委員（Zoom）、生駒大洋委員、齋藤正雄委員、都丸隆行委員（Zoom）、藤井友香委員（Zoom）、満田和久委員、本原顕太郎委員（委員長）、吉田道利委員（Zoom）

○欠席者：

（台外）村山斉委員

○陪席：

（台内）土居守台長、藤田常事務部長

1. 台長挨拶

開会にあたり土居台長から挨拶があり、研究連携主幹の交代に伴い4月から生駒大洋委員が新たに委員となったこと、及び研究連携主幹を退任した本原顕太郎委員を改めて委員に追加し委員長として選任したことの報告があった。

2. 確認と報告

2.1 国立天文台科学戦略委員会名簿、規則の確認

2.2 委員の交代・追加及び新委員長の確認

委員会名簿、規則、委員の交代・追加及び新委員長の確認を行った。

2.3 第7回議事抄録の承認

3月18日に開催された第7回国立天文台科学戦略委員会議事抄録の説明があり、確認のうえ承認された。

2.4 2023年度諮問事項の検討結果の運営会議報告

3月26日に開催された国立天文台運営会議における2023年度諮問事項の検討結果報告に対するコメントの報告があり、意見交換を行った。

<運営会議委員からの主なコメント>

- ・建付けとしては、サイエンスロードマップ策定母体（SRM策定母体）は運営会議の下に設置され、運営会議が策定母体に対してチャージを出すべきである。

- ・策定母体が科学戦略委員会のみとなる場合、サイエンスの分野が広いため全てをカバーすることが出来ないのではないか。
- ・フロンティアのような大型計画を議論する場合には文部科学省のロードマップとタイミングを合わせる必要があるが、現時点で文部科学省のロードマップのスケジュールが不明であるため、事前に議論することは困難である。
- ・昨年度の LOI の発表では各プロジェクトの国際的な位置付けに関する説明がなかったため、類似プロジェクトに対する優位性などについて LOI または基礎資料に入れてもらう必要がある。

(主な意見交換)

ー運営会議からの策定母体に関するコメントは、これまでの科学戦略委員会での議論を踏まえたものではなく、単に形式的な観点からのものであるように思われる。時間も限られているので、運営会議でもう一步踏み込んだ議論をしてもらうのか、あるいは科学戦略委員会である程度議論したものを提案すべきなのか、次回の運営会議とのイタレーションを迅速に行う必要がある。

ー本日の本委員会での議論を基に次回の運営会議へ提案し、そこで議論されたものを基に直後の本委員会で基本的な方針を決めるのが良いのではないか。

ー運営会議のコメントは、科学戦略委員会が SRM 策定母体となることに反対するものではなく、より広いサイエンスをカバーできるような委員構成を考えるべきという助言と思われる。本日議論したうえで改めて運営会議へ提案すればよいのではないか。

ー運営会議も 4 月に委員の入れ替わりがあったため、2023 年度審問事項の検討結果を再度説明したうえで SRM 作成母体についてコンファームする手続きは絶対に必要である。ただし、それを待っていると間に合わないため本日は科学戦略委員会が SRM 策定母体となることについて承認されることを前提として議論を進めることとしたい。

3. 議題

3.1 サイエンスロードマップ策定の手続きとスケジュールについて

3.1.1 策定母体について

SRM 策定母体として考えられるメンバー及び留意点について説明があり、意見交換を行った。

(主な意見交換)

ー基本的には科学戦略委員会が SRM 策定母体となり、そこに運営会議のメンバーや昨年の将来シンポジウムの SOC の方を加えていくという考え方が良いのではないか。コミュニテ

ィに推薦依頼を出すことも考えられる。

ー10 月に半数程度が入れ替わる新たな科学戦略委員会委員を想定しているのであれば、委員の選定にあたりコミュニティに推薦依頼を出すものと思うので、その際に科学戦略委員が何をするのかというのを明確にしておくことで SRM 策定母体のメンバーとしての推薦依頼も兼ねるのではないかな。

ータイムスケール的には次期の科学戦略委員会となるのが現実的であり、大部分の活動が次期委員の任期に収まることになる。万が一終わらなかった場合には、その委員に SRM 策定母体は続けてもらうのが良いのではないかな。

ー基本的にはその提案で良いと思う。LOI や基礎資料を提出してもらいその後の審議を進める枠組みは 9 月末までの今期の委員会が中心となって決定し、実際にそれを実施することは次期の委員会にバトンタッチしてその枠組みに従って実際の選定作業を進めていくということであれば、あまり途中で人が入れ替わるという問題は生じにくい。

ー分野をカバーしていないという問題については科学戦略委員会が不足する分野をみて人を加えればよく、これから行うサイエンスロードマップに関するディスカッションを通じてコミュニティに十分に納得してもらえば必ずしも推薦依頼を行う必要は無いのではないかな。また、運営会議の委員を入れる点については運営会議に判断してもらえばよい。

ー科学戦略委員会をベースにして、運営会議委員を入れるかは運営会議で判断してもらい、それ以外の有識者を加えるかについては科学戦略委員会で引き続き議論することとしたい。運営会議委員の任期は 2026 年 3 月末までとなっており、スケジュール案ではサイエンスロードマップの策定まで現在の委員の任期に収まっている。

ー運営会議委員の任期は 2 年で 2026 年 3 月末までのため、スケジュール案でいうとサイエンスロードマップの策定までは現在の運営会議委員が継続なので問題無い。もし任期を超える場合には科学戦略委員会と同様に同じ人に続けてもらうのが良い。

ー本日の議論をベースに明文化して運営会議向けの資料を作成する。意見が適切に反映されているか回覧させていただきたい。

3.1.2 策定スケジュールについて

天文台執行部が作成したサイエンスロードマップ策定スケジュール案について説明があり、意見交換を行った。

(主な意見交換)

ー実施計画策定案は、各コミュニティが提出する LOI や基礎資料に盛り込んで欲しい情報に落とし込む必要がある。科学戦略委員会とは別に天文台執行部から出ていくとなると整合性が取れなくなる可能性もあるため、科学戦略委員会で確認する行程が必要である。

ーLOI 提出のコールが 9 月半ばになっているが、将来シンポジウムまで 2 ヶ月しかなく時間が短いのではないかと。昨年度の LOI 作成にあたっては手探りだった部分も多く十分に理解されていないところもあった。もし今度の将来シンポジウムで本格的に議論を始めるのであれば提出する人たちとも早い段階でコンセンサスを取らないと混乱しないかと懸念している。

ー昨年度は提出者間で将来シンポジウムの位置付けについて理解度が異なり基礎資料も色々なレベルのものがあつた。今年は基礎資料作成の途中にシンポジウムがあり、発表を通じたフィードバックも盛り込んで基礎資料をブラッシュアップアップしてもらおうと理解している。

ー可能であれば説明会を開催して LOI コールを 10 月より早く行い、質問等もある可能性があるためそのための準備期間も取るべきということで理解した。スケジュールについて運営会議にも提示するので意見があれば事務局までご連絡いただきたい。

3.2 将来シンポジウム

3.2.1 開催日程

本年度の将来シンポジウムの開催日程について確認を行い、12 月の第一週を候補として調整することとした。

3.2.2 SOC の体制について

SOC についても SRM 策定母体が担うべきとの提案があり、意見交換を行った。

(主な意見交換)

ー昨年度と同様に SOC は別途組織されるものと考えていたが、今回の SOC のデューティーはもっと楽なものになるはずなので、SRM 策定母体が担うという考え方もあるように思う。

ー昨年の SOC は資料を先に読んでコメントするというのが大変だったが、LOI を出すことなどは SRM 策定母体が行うことになるため、SOC は科学戦略委員+数人でまずは準備を始めるでも良いかと思う。科学戦略委員の中でできる程度かと思うので 12 月まではその人たちが続けることで成立するのではないかと。

ータイムスケジュール案を見ると色々と立て込んでいるので役割分担が出来ればと思う。
次回の科学戦略委員会までに全体の業務を天文台執行部で議論してリスト化してもらいたい。

3.2.3 シンポジウム内容について

将来シンポジウムは基礎資料の中間プレゼンにより SRM 策定母体のイメージとの摺り合わせがメインとなることの確認があった。また、2023 年度の国立天文台国際外部評価において、シンポジウムを開催する場合には全ての参加者が内容を理解できるよう毎年同じことを行うべき、との指摘があったことが紹介された。

(主な意見交換)

ー海外の各種プロジェクトの動向のレビュー、光赤外で今どのような動向になっているのか、電波でどのような動向になっているのか、というところをレビューするというのが一つあっても良いのではないか。

ー提案を出してきたプロジェクトの話を聞いてフィードバックを行うためには十分な説明を聞く必要があり、それだけでも時間が埋まってしまうようにも思われるが、指摘のあったことはその通りかと思う。

ー昨年度の将来シンポジウムでは、特に若手の研究者で前年度に参加していない人から何を話しているのか分からないというコメントが実際にあった。少なくともこれまでの議論を一度整理するというセッションを設ける必要があると考えている。

ーシンポジウムの前に提出された LOI を基にロードマップにどう繋がっていくのかというビジョンを SRM 策定母体で整理し、プレゼンすることが必要かと思う。

3.3 委員会開催予定（2024 年度前期）

今後の科学戦略委員会の開催予定について確認し、次回以降は可能であれば現地参加するよう要請があった。

(主な意見交換)

ー天文台執行部も新たになったので、実施計画の策定に必要な事項全般を一度説明してもらい、科学戦略委員会の想定とズレがあればディスカッションすることが望ましい。

以 上